

第2回美しい四国づくり委員会

欠席委員意見

- **西村委員** (東京大学大学院工学系都市工学専攻教授)
- **福武委員** (ベネッセコーポレーション代表取締役会長兼CEO)
- **大西委員** (四国経済連合会会長)

西村委員

■各地域を数珠つなぎにしたフラットな組織づくり

- ・大きな信仰があり、実践することで救われるというお遍路文化のシステムを 現代に翻案し、各地域が自立し競い合い、それらを数珠つなぎにしたフラットな組織づくりができないか。
- ・文化圏毎に、各地域に責任のあるグループが担い手となる。
- ・年一回程度、四国全体での報告会や表彰を行い、情報交換。テーマ毎に分科会開催。
- ・共通コンセプトを持ち、ムーブメント(運動体)としてこれを進める。

■近畿圏をターゲットとしたサポーターづくり

- ・近畿圏からサポーターが得やすく、広域的な呼びかけが可能。
- ・サポーターが観光の呼び水にもなる。
- ・近畿圏にとっても、大都市圏に近い自然の残る四国は、自らの魅力を増す奥座敷。

福武委員

■包み込む空間・世界の聖地

- ・四国には、我が国にわずかに残された本当の原風景がある。
- ・市場原理主義や経済効率主義でない価値観の人々を『包み込む』空間として捉えていくべき。
- ・緊張感から解放されて、心の安らぎを得ることが出来る「世界の聖地」を目指すべき。

■お年寄りを大切にす四国

- ・我が国の古き良き伝統や文化・精神が、現代社会の矛盾を打破し、安らぎを与えてくれる。お年寄りにこそ日本の価値観や判断が残されている。
- ・「お年寄りを大切にす四国」をPRしてはどうか。

■国内、世界への情報発信と交流・連携

- ・国内のみならず海外に向け情報発信すべき。
- ・点ではなくエリアでの競争と協調。棚田・里山・海の交流・連携。越後との連携

■地域の取組等

- ・寄付、寄進の精神を発揮し、産・官、企業や個人の参画のしかたを考える。
- ・負け組感が蔓延している地域の人々が、地域に自信を持つこと。
- ・瀬戸内は財産。観光ヘリや船の観光など、具体ルートまで検討してはどうか。

大西委員

■ 地域愛の醸成

- ・人口減少社会においては、交流人口の拡大が地域活性化の重要な施策。
- ・まず、そこに住む人々が“わがまち”に愛着心を持ち、誇りを持って生活し、地域を盛り立てているかどうか。
- ・地域への愛着心の醸成や、地域づくりに対するやる気をいかに起こさせるか。まずは、その仕組みづくりや官民一体となった支援体制を創り出すことが必要。

■ 美しさを保つためにはある程度の規制は必要

- ・個人の家も景観上やまちづくりの観点からは“公”という認識が必要であるが、住民は、まだまだ私権の意識が強い。
- ・統一的な美しい街並み整備などを進めていくうえで、各人の好みをどう調整するかが最大の課題。それを調整するという観点からも、何らかの規制は必要。
- ・ただし、既存の規制は、お上からの強制的なものとの意識が強い。地域住民も交え、内容の見直しや新たな制定を行うことが必要。